

科目担当者氏名 (ふりがな) いちのかわ・やすたか/やまもと・やすし 市野川容孝/山本泰		科目担当者連絡先 (Eメールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) いちのかわ・やすたか 市野川容孝		科目設置機関名 東京大学大学院総合文化研究科
授業科目名 国際社会科学特殊研究Ⅲ	科目設定番号 TOKx-020101-0	受講者数 6名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 本調査では、学生自身が、各福祉の現状把握のため、世田谷区役所に予備的なヒアリングをおこなった他、夏休みには世田谷ボランティア協会を通じて、ボランティア活動に従事しながら、聞き取り調査の対象を自分で探し出すなど、調査に対してきわめて高いコミットメントをはたした。世田谷区内における福祉の現状を、高齢者、子育て、障害者の三つの領域にわたって総合的に明らかにできたことには、大きな意義があると思われる。

II. 調査の企画・設計(デザイン)

1. 調査のテーマ/領域： 「ケアの社会化とコミュニティ（世田谷区調査）」。(1) 高齢者福祉の現状、(2) 子育て支援と保育の現状、(3) 障害者福祉の現状。
2. 調査の内容/概要： 上記の3つのサブテーマについて、各々、ドキュメントおよび統計データ等の資料を収集・整理し、加えて、関係者に聞き取り調査をおこなった。(2)については、質問票を用いたアンケート調査をおこなった。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： 一方では、世田谷区役所の関連部署 (保健福祉部、保育課、障害福祉課等)、他方では、民間組織である世田谷ボランティア協会、自主保育サークル (世田谷区内)、HANDS世田谷 (介助者派遣事業) 等に対して、聞き取り調査をおこない、行政と民間組織の両面から、上記の3つについて現状把握をおこなった。
4. 主な調査項目： 上記の3つのサブテーマについて、各福祉制度の歴史的経緯、各事業体の沿革と活動内容。(2)の自主保育サークルに対しては、各サークル (計13) およびその参加者 (計58名) を対象に、質問票を用いて、子育てに関する意識調査をおこなった。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法： 主にインタビュー調査。加えて (2) においてはアンケート調査。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2002年10月から2003年2月まで。東京都世田谷区内各所。計17名 (うち本授業履修者は6名)。
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)： 聞き取り調査 (インタビュー調査) が主であったが、(2)のアンケート調査 (スノーボール・サンプリング) においては、計13のサークルに質問票を配布し12の回答を、また計58名のサークル参加者に配布し40の回答をえた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： インタビュー内容を全部もしくは一部を、インタビュイーのチェックを受けながら文字化し、加えて他のドキュメントや統計データ等の資料を交えて分析した。(2)のアンケート調査では、単純集計およびクロス集計。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)： 詳細は下記報告書を参照されたいが、(2)において「自主保育サークル」というユニークな取組みの内実を明らかにした。また (3) においては、新たに導入された「支援費制度」について、世田谷区をフィールドに、リアルタイムでそれがもたらす変化を追うことができた。
10. 報告書刊行の予定と概要： 東京大学大学院総合文化研究科/教養学部・相関社会科学研究室『ケアの社会化とコミュニティ』(2004年2月、全332頁)として刊行した。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。